

## 表題：第13回瑞穂町の協働を考える会議 概要

- 1 日 時 平成26年5月13日（火曜日） 18時35分から20時20分
- 2 場 所 町民会館第1会議室
- 3 出席者 （構成員） ※以下出席者について敬称略  
榎本和己、加戸佐織、香取幸子、川口尊、古宮郁夫、中沢清、  
野本多恵子  
（瑞穂町協働施策推進アドバイザー）  
辻山幸宣  
（事務局）  
栗原裕之（住民部長）、古川実（住民部地域課長）、水村探太郎（住民部地域課地域係長）、吉岡佐知代（住民部地域課地域係主任）、福島聡（住民部地域課地域係主任）
- 4 欠席者 近藤隆幸、清水久央
- 5 議 題
  - 1 （仮称）瑞穂町協働宣言（案）のパブリックコメントについて
  - 2 協働宣言の実現について（宣言の周知・啓発）
  - 3 その他
- 6 配付資料
  - 1 次第（当日配付）
  - 2 第12回瑞穂町の協働を考える会議まとめ（事前配付）
  - 3 （仮称）瑞穂町協働宣言（案）のパブリックコメントの実施について（当日配付）
  - 4 （仮称）瑞穂町協働宣言（案）の構成（当日配付）
  - 5 （仮称）瑞穂町協働宣言（案）（当日配付）
  - 6 協働宣言の実現について（宣言の周知・啓発）（当日配付）
- 7 あいさつ  
栗原部長
- 8 開会  
古宮座長

- 議題1 （仮称）瑞穂町協働宣言（案）のパブリックコメントについて  
事務局から
- ・ 資料の確認
  - ・ 内容について説明

### 【ご意見】

- ・ 小学校や中学校にはどのような感じの文章を出すのかなと思いました。今ではなくて良いのですが、見ることはできますか。  
→（事務局）次回の会議との兼ね合いもあります。
- ・ どのような言葉で子どもたちに投げかけるのかすごく興味がありました。子どもの頃から意識があったら良いなと思ったので、どんな感じの文章で誰が作るのかなと思いました。
- ・ 小学生と中学生では感じ方も違うと思います。宣言文の文章をそのまま出しても分からないと思いましたので、「皆で協力して町をつくるにはどうしたら良いか。」のような感じにしてはどうでしょうか。
- ・ 原文のままだと小中学生には難しいですね。
- ・ 協働宣言ということではなく、協力して町をつくることに対して意見をもらうとか、「考えていることを教えてください。」とかそういう感じなのかなと思います。その中から将来、子どもたちを巻き込むというか、そういうヒントがあるのかなと思いました。
- ・ 私が活動を行う際には、未就学児、小学生、中学生、高校生に対してそれぞれ伝え方を変えているので、一緒に考えて町をつくるということが良いのかなと思いました。
- ・ ここにいるメンバーでさえ協働ということに関しておぼつかない部分もある訳ですからね。それが子どもに対してですから、難しいのかなと思います。
- ・ 先生と子どもが考えても良いと思いますし、そのようなきっかけになるのかなとも思います。
- ・ ポスターについては、まだ小中学生には渡していないですか。  
→（事務局）渡していません。
- ・ ポスターを貼り出すだけではなく、協働宣言というのは「皆でまちづくりをしていこう。」という趣旨であるという話をして、分かってもらった方が早いのではないのでしょうか。言葉で伝えていった方が、子どもたちには分かってもらえるのかなと思います。
- ・ パブリックコメントを実施する際は、宣言案の構成とかも出しますか。  
→（事務局）出します。
- ・ 方針の2つ目の「参加する・やってみよう」というのが1つだけ他と語調が違っていますが、「参加する やってみる」に変えることはできないのでしょうか。以前の会議で、宣言文の方針の5つの項目について多数決を採りましたが、全体的に見てというよりは個々について見た訳ですよ。
- ・ 宣言文というのは威厳のあるものだと思います。
- ・ パブリックコメントの募集を出したら、語調が違っているという意見も挙がっ

てくる可能性もありますね。そのためにパブリックコメントという手法を取る訳ですので、そのような意見があればそこで変えていくことになると思います。

- ・ 確かに、意見が出て変えていくこともできると思いますが、今の時点で気になるところがあれば、今の時点で変えても問題はないと思います。
- ・ もう1回これに関して表現を変更しようということで皆さんがまとまれば、それは構わないと思います。
- ・ 例えば、「参加してみよう」と変えて出してみたら、「参加する」の方が良いという意見が多かったら、またそれを取り入れるということになるでしょうし、その辺のところはこの会議として出していくことだと思います。
- ・ パブリックコメントで一応宣伝するのですが、出すときは良いものを出しておくことが必要だと思います。意見が出なければ良いというのは違うと思います。
- ・ 前回の会議では5つの方針を4つのパターンからそれぞれ選んでいると思いますので、これが「やってみよう 参加する」でも問題ないと思いますし、全体的に見るとちょっと違う気もします。
- ・ 「参加しよう やってみる」でも、「やってみよう 参加する」でも、どちらも良いと思います。やはり、文字が太字になっていると揃えておいた方が良いと思いました。
- ・ 参加意識があって、その次に行動があると思いますので、「参加しよう やってみる」の方が、「やってみよう 参加する」より流れは良いと思います。

※ 各委員から複数候補を挙げ、その中から多数決を採ることとしました。

(1人2票を持ち、票数の多い2つの候補で決選投票)

多数決の結果は以下のとおりです。

候補の内容	1次	2次(決選)	決定
<u>1 参加しよう みんなの空間</u>	0票		
<u>2 参加しよう 地域づくり</u>	10票	7票	○
<u>3 参加しよう 地域の行事や活動</u>	4票		
<u>4 参加しよう 自らつくる地域</u>	8票	4票	
<u>5 参加しよう やる意識(意欲)</u>	1票		
<u>6 参加しよう コミュニティづくり</u>	0票		

#### 事務局から

- ・ パブリックコメントをやって良い意見が出て、「それはもっともである。」ということであればそれに変更しても良いと思います。

- ・ 検討していただく中で、他のどれも後半が体言止めで終わっているのですが、そのあたりも含めて検討していただければと思います。

## 結 論

- ・ 小中学生に対してどのようなポスターで意見をもらうかについては、会議後別途調整することとしました。
- ・ 言葉で伝えることが必要であるとの意見については、募集期間中の動きにずらせられること、また、学校側の都合もあることから、事務局が意見をまとめるタイミングや会議以外の場でのやり取りで調整することとしました。
- ・ 方針の2つ目の「参加する・やってみよう」が、他の4つの表記と比べると異なっているので再考すべきではないかとの意見があったことから、複数候補を挙げ、多数決を採ることとしました。その結果、「参加しよう 地域づくり」に修正することとしました。

## アドバイザーからの講評

- ・ 形やリズムを大事にすることにどれだけこだわるのかはセンスの問題であるので、良し悪しはありません。
- ・ 5つの方針のうち、4つは前に呼びかけ文があって、その後に呼びかけの中身が書いてあります。そうすると、参加しようといったら、「地域づくり」であるとか「地域の行事」に参加しようといった表現になるかもしれません。こだわるのであれば、他の4つの方針には出てきていない「地域づくり」であるとか「地域の行事」といった感じにすれば体言止めになって、しかも形式は呼びかけがあって、呼びかけの中身が入って揃うことになります。

## 議題2 協働宣言の実現について（宣言の周知・啓発）

### 事務局から

- ・ 内容について説明

### 【ご意見】

- ・ 今瑞穂町の人口は3万3,865人ですよね。夜間人口と昼間人口があると思いますが、昼間人口はどれくらいになるのでしょうか。  
→（事務局）国勢調査の結果によると、瑞穂町は西多摩地域でも異例な、昼間人口が1を超えています。これは、瑞穂町に働きに来ている人が多いということです。現在出ている22年度の数字も、その前の数字も1を超えていますから一過性のものではありません。それだけ瑞穂町には企業体が多く、他所から

来ている人が多いのは特筆していると思います。

- 現在瑞穂町に住民登録している人と勤めなどで入ってくる人たちのトータルの人数はわかりますか。町づくりを考えたときに、なかなかどうして私は地元の間人ですので地元に住んでいる人だけでやっていけばという意識が強いのですが、皆でまちづくりをしようと考えたときに、本当に瑞穂町に関係する人というのはどれくらいなのかが気になりました。今回は急な話ですので、良いデータ等があれば教えていただければと思いました。
- 社会貢献活動団体等との協働事業実施状況結果の一覧表に掲げられている事業について、同じ人が複数関わっていることはあると思うのですが、どれだけの人がこれらに関わっているのかが気になりました。一覧表には協働ではないものもあるかもしれませんが、ここに関わる人たちがまず協働というものを再認識などしていければ、瑞穂町全体の人口の割合でどれくらいになるのかというのがあります。どのような形で周知していくかということがありますから、既存の組織で活動されている方々に協働の意味であるとか必要性を理解してもらい、そのような活動に対しての姿勢を再確認してもらえれば良いのではないかと思います。そうすることによって、改革や提案ということが起きてくれば、また効率の良い動きにつなげていけるのではないのでしょうか。
- 瑞穂町の3万の人口の1人ずつに分かってもらうようにするのか、どのようなボリュームに対してどのような発信をしていくのか、ある程度数字として捉えていった方が、取り組みやすいのではないのでしょうか。
- 長期総合計画は6章から成り立っていましたよね。その6章を分類したときに、調査結果一覧表の各事業がどういったところに入るのかといいますか、どんな形で協働が関わっていけるのかというのが、ある分野だけ一方的に進んでいくのも効率が悪いので、全体的に見ると、「ここは協働がないな。」ということが見えてくると思います。そこが逆に周知するときのポイントとなり、手薄な分野かなと思いますので、その辺も含めたデータの分析というものをしていけば効率の良い周知ができるのではないかと思います。少なくとも長期総合計画には町を良くしていくことについて書かれている訳ですよね。その辺のところを踏まえて、手法としての協働を使える活動ができるということにするために、全体的に周知していくことになると思いますが、その方が整理しやすいのではないのでしょうか。
- 今日の配付資料のイメージ図ですが、町と町民の関係が縦になっているのですが、左右にした方が、私は手をつなぐという意味合いがあり、協働を考えたときには良いと思います。
- 意識という部分でもイメージでも大事ですね。

- ・ 左右の形にして、その下にどういった結果があるとか、協働による町の充実があるような言葉が来る方がイメージを作りやすいと思いますので、今後こういったイメージを多くの方に出されるのであれば、縦の形に変えた方が良いのではないかと思います。
- ・ 協働を進めるに当たって、意識というのは他のことにも掛かってきますよね。
- ・ 上から下に伸びていると、町がやってくれるという感じに捉えられてしまうかもしれません。
- ・ 無理やりといった捉え方をされてしまうかもしれませんね。
- ・ これは協働宣言が出た後のことですか。今から並行してやっていくことですか。→（事務局）基本的には並行してやっていければと考えています。
- ・ 例えば、フォーラムや講演会も良い方法だと思いますので、協働宣言が出る前に、「協働とは何か。」ということが分かるようにしていく方が効率的なのか、それとも宣言が出た後にじっくり考えていく方が良いのかですね。いきなり、「来月にフォーラムをやります。」といってもできないでしょうから、まずはこの中から取り掛かった方が良く何かを考えていった方が良くと思います。

#### 事務局から

- ・ 今後もこの会議は月に1回の開催を予定しています。3月までに協働宣言の実現に向けた提言書をまとめていただきたいということがありますので、今回議題が終わらなくても、まだ回数はあります。
- ・ 純粋に瑞穂町に住民票を置いている人以外の方々も、瑞穂町で昼間生活をされている人の意見といたしますか、考え方も行政として取り入れていかなければいけないというのは大きなテーマであると思います。

#### 結 論

- ・ 時間の関係で内容を深く議論できなかったため次回に持ち越し、資料に関してアイデアなどがあったら各自まとめておき、次回につなげることにしました。また、問い合わせたいことがあれば、事務局に連絡することとしました。

#### アドバイザーからの講評

- ・ 「協働とは何であろうか。」ということについて、ここに参加されている方が次第に身につけてきていると感じました。例えば、町と町民との関係を表すときに縦より横が良いだろうというのは協働をする根本ですよ。
- ・ スケジュールのことでも、講演会にせよ何にせよ、「協働宣言をこのように決

めました。」とやるよりは、「こういう形で決めようとしています、どうでしょうか。」という方が協働の精神に合っているであろうと考えると、そういったセンスをどうやって多くの方と話をさせていただいて、周知していくかが第一着手であると思います。

- 皆さんが多くの方と「協働でこういうことをやっています。」という話題を広げていただければすごく有力であると思いました。

### 議題3 その他

#### 事務局から

- 今後のスケジュールについて（仮称）を資料「瑞穂町協働宣言（案）の今後のスケジュールについて」をもって説明しました。
- 瑞穂町新庁舎建設基本計画協議会委員の選出について管財課から依頼があり、本会議から加戸氏を推薦したい旨を説明しました。→一同了承
- 次回会議の日程を調整しました。